

2 0 2 5

大学院シラバス

（令和 7 年度入学生用）

岐阜大学大学院医学系研究科
医療者教育学専攻学生用

授業科目等一覧

授業科目	科 目 名	単位数	備考	頁	担当教員		
学際科目	医療における多職種協働と地域連携	2	必修、1年次開講	1	川上 ちひろ	西城 卓也	
	医療者教育の社会的意義	2	必修、1年次開講	2	西城 卓也	谷口 泰弘	牛越 博昭
専門科目	教育理論と効果的な教育方法	2	必修、1年次開講	3	野村 理	西城 卓也	
	学習者評価の原理と評価方法	2	必修、1年次開講	4	野村 理	牛越 博昭	
	カリキュラムの開発と評価	2	必修、1年次開講	5	野村 理	磯部 真倫	
	医療者教育におけるグローバル化と日本での展開	2	必修、1年次開講	6	川上 ちひろ	西城 卓也	
	医療系教育者の教育能力開発	2	必修、1年次開講	7	西城 卓也	谷口 泰弘	
	医療者教育の改革におけるリーダーシップとマネジメント	2	必修、1年次開講	8	早川 佳穂	磯部 真倫	
	教育実践報告と改善のための批判的吟味	2	必修、1年次開講	9	野村 理	西城 卓也	
	e-learningにおける学習支援	2	選択、2年次開講	10	西城 卓也	早川 佳穂	
	医療者教育研究のプロトコール立案	2	選択、2年次開講	11	野村 理	西城 卓也	
	e-learning・シミュレーション教育の開発	2	選択、2年次開講	12	西城 卓也	早川 佳穂	
特別研究	医療者教育研究技法の基本	2	必修、1年次開講	13	野村 理	西城 卓也	
	医療者教育実践の調査と研究	6	必修、2年次開講	14	野村 理	西城 卓也	

学際科目 授業科目内容

授業科目区分：	学際科目	授 業 科 目 医療における多職種協働と地域連携 Interprofessional and community collaboration for healthcare
対 象 学 年：	1 年次	
単 位 数：	2	担当教員名 川上 ちひろ・西城 卓也
開 講 時 期：	前期	
開講時間割①：	別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：		教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 現代の医療教育機関に相応しい、医療者教育学の関係者に求められる能力や知識を、総論として俯瞰的に学ぶ。現代の医療現場に欠かせない視点である地域連携・多職種連携の事例を題材に、地域での医療者教育や多職種連携に必要な理論やモデルを学ぶ。そして様々な保健関連職業の医療者や学生が協働的に学ぶことで、協調的コミュニケーション・互恵的態度・連携能力・チームワーク構築ができるようになるような、医療者教育の在り方を学ぶ。 1) 地域における多職種連携の事例を俯瞰し、多様な職種とその行動を観察し、多職種連携の意義を論じられる。 2) 必要な教育理論を理解し、多職種連携の事例を分析できる。 3) フィールドワークやインタビューを通じて現状を把握し、改善すべき課題を同定・分析し改善案を提示できる。 4) 地域医療教育の事例検討を通じて、地域基盤型教育の展開に必要なエッセンスを論じることができる。 5) 社会的構成主義・学習者中心性・自己調整型学習や協働学習等、教育の基本的パラダイムを説明できる		
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 学際科目「医療者教育の社会的意義」と連動している科目である。		
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：□計画・■実行・□管理 伝：□傾聴・■発信・□把握 考：□課題・■創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 我が国のヘルスケア、そこで働く多職種の連携、そこで行われる教育について俯瞰的かつ有機的に理解すべく、多職種の学生が協働的に議論できる態度の涵養を狙う。		
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知		
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）		
その他特記事項		

授業科目区分：学際科目	授 業 科 目 医療者教育の社会的意義 Social significance of health professions education
対 象 学 年：1 年次	
単 位 数：2	担当教員名 西城 卓也・谷口 泰弘・牛越 博昭
開 講 時 期：前期	
開講時間割①：別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 社会と国民のための医療と、それを担う医療者育成を大局的に捉えるため、医療および各専門職の歴史的背景・社会的意義や役割を俯瞰し、医療者教育に携わる人材に求められる役割・能力・意義を議論する。 1) 医療・福祉・介護に貢献できる優れた人材を育成するため、どのような医療者教育が求められるか説明できる。 2) 社会における医療者教育の意義を学びつつ、医療者教育者の能力と役割を俯瞰的に理解する。 3) 医療者教育学における、教育実践と教育研究の狭間の学究的活動の在り方を説明できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 学際科目「医療における多職種協働と地域連携」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：■課題・□創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 我が国のヘルスケアを支える医療者教育の目指すところを理解し、本修士課程における学びを意義深いものにするため、医療者教育学を学ぶ意義の基本的理解を獲得することを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

専門科目 授業科目内容

授業科目区分： 専門科目	授 業 科 目 教育理論と効果的な教育方法 Educational theory and effective educational methods
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 西城 卓也・野村 理
開 講 時 期： 前期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 人間が学習をどのようにとらえ、どんなプロセスを経てその学びを得るのかというメカニズムは、医療者教育学における教授法、評価法、カリキュラム開発の 3 大基本領域において根源をなすものである。学習者心理を理解することは、教育的影響を加味した評価のデザイン、効果的な学びを支援するカリキュラムのデザインに必要な不可欠である。学習者が、自己の認知プロセスや学習行動を調整するアプローチ、および感情や文脈といったそれに影響する要因を理解するために必要な、認知心理学と学習理論を学習する。また医療者教育に欠かせないテクニカルスキルの学習方法も学ぶ。またより学習者の多様なニーズに合わせた効果的教育や学習者支援をできるようになるため、基本的教育方法のみならず、支援のアプローチを学習する。 1) 認知心理学の根拠に基づき教育の在り方や、学習者の特性を論じることができる。 2) 医療者教育において頻用される講義法、グループ学習、一対一教育の基本的な原則を理解し説明できる。 3) 教育実践の改善のための策を事例に基づき理論的かつ建設的に議論できる。 3) 様々な学習場面での学習者とのコミュニケーション・支援を効果的に行える。 4) シミュレーションなど最近の教育アプローチについて自由な討議ができる柔軟な姿勢を示すことができる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 専門科目「学習者評価の原理と評価方法」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：□課題・□創造・■論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論と、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	学習者評価の原理と評価方法
対 象 学 年： 1 年次	授 業 科 目 Principles of learner assessment and its method
単 位 数： 2	担当教員名 野村 理・牛越 博昭
開 講 時 期： 前期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 医療系の人材の能力を判定する評価方法の理解は、カリキュラムや授業の中での学びの進捗の確認や、国家試験・資格試験といった判定試験を公正公平に行うにあたり欠かせない。医療者教育における評価について、妥当性・信頼性などの基本的原則や、理解しておくべき評価のパラダイムと様々な評価ツールを理解する。そして授業・科目・入学／卒業試験・資格試験など各段階における評価において、公平な試験・判定がデザインできるだけの基本的能力を身につけることを目指す。 1）妥当で効果的な学習者評価を開発・運用・分析・評価するために必要な、教育測定学の基本を説明できる。 2）評価方法を、妥当性・信頼性・受容性・教育への影響・コストパフォーマンスの観点から総合的に吟味できる。 3）集計された評価結果を、必要に応じて統計学的あるいは質的に集計・評価できる。 4）目的に応じて実現可能な学習者の評価方法とその活用を設計、計画できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1）スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2）専門科目「教育理論と効果的な教育方法」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：□課題・□創造・■論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論と、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1）課題レポート評価 2）学習サマリーレポート評価 3）スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4）LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	授 業 科 目 カリキュラムの開発と評価 Curriculum development and evaluation
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 野村 理・磯部 真倫
開 講 時 期： 後期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） カリキュラム/プログラムとは、すなわち学びの総体である。教育の総体には、明確な長期中期目標、学習理論に基づく教育方略とその配置、熟達化を継続的に評価できる評価システムの設計、効果的な運用ができる人材とその養成、カリキュラム運用、関わる人すべてにとって相応しい学習環境の整備、のように教育のすべての要素が総合体としてまとまっている。効率よく効果的に教育が行われるカリキュラム／プログラムをデザインするために必要な、カリキュラムデザインの原則を理解することを目指す。またプログラム評価のモデルを理解し、プログラム評価の分析と改善計画を立案するエッセンスを学習する。 1) カリキュラム/プログラムの構成要素を説明できる。 2) 科目群の整合性や、順次性、学びの進捗と統合という観点からカリキュラムを論じることができる。 3) 学びと評価の連続性を理解し、教育パラダイムというレンズを通じて、カリキュラムの長所と短所を議論できる。 4) 実現可能なプログラム計画を設計・運用できるようになる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 専門科目「医療者教育におけるグローバル化と日本での展開」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：□課題・□創造・■論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論と、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	医療者教育におけるグローバル化と 日本での展開 Glocalization in health professions education in Japan
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 川上 ちひろ・西城 卓也
開 講 時 期： 後期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） グローバル化の時代に求められる、国際基準を満たす医療者教育とはどのようなものであるか、日本の強みと弱点を含め、多角的に議論する。一方、教育とは国や組織の文化の影響をうけていることも事実であり、本科目では国や組織における文化を理解するフレームワークを学習する。そしてその視点から、国や組織の文化が日本の教育の在り方の形成にどのように影響しているのか学習する。そして医療者教育が、グローバルスタンダードとローカルルールの狭間で、どのように我が国の教育を形成していけるのか Micro、Meso、Macro の各レベルの視点から分析する。 1) 世界的に提示されている医療者教育のグローバルスタンダードを理解し説明できる。 2) 国際基準・基準に照らし合わせて日本の医育機関の強みと弱みを同定し、その改善を提示することができる。 3) 国の文化、組織の文化を理解する理論的枠組みを理解し、医療や教育への影響を議論できる。 4) 教育の違いを文化的にとらえる視座を獲得し、それを教育実践にどの様に組み込めるのか洞察できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 専門科目「カリキュラムの開発と評価」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：□課題・■創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論や国際的動向と、我が国の教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	授 業 科 目 医療系教育者の教育能力開発 Professional development for health professions educators
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 西城 卓也・谷口 泰弘
開 講 時 期： 後期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 医療者教育の運用や改革を、病院や学部リーダーとともにけん引する教育の専門家として、現代の複雑化・高度化した教育に対応できるような教育スキルや資質を有する教育者の育成戦略を学ぶ。特に教員/スタッフの教育力養成のためのプログラム・セッション・ワークショップの具体的構築方法を演習する。そして医療者も教育者も生涯にわたり、立場に応じた教育能力を開発・維持するためにはどのような継続的で効果的な学びが求められるのかを議論する。 1) 教育能力の開発と役割による段階的な発達の在り方を議論できる。 2) 教員・スタッフといった指導者養成について理論的に方法論とその評価方法を提示できる。 3) 指導者育成のためのワークショップや各種教員養成を効果的に実施しつつ、内省し改善計画を立てられる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 専門科目「医療者教育の改革におけるリーダーシップとマネジメント」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：■課題・□創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論や、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	授 業 科 目 医療者教育の改革における リーダーシップとマネジメント Leadership and management in innovation in health professions education
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 早川 佳穂・磯部 真倫
開 講 時 期： 後期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 医育機関の基盤をなす人材・業務・環境を、効果的にマネジメントし、ニーズに応じた組織改革をするため、組織の力学と変化を起こすためのエッセンスを学習する。そして医育機関における教育の改革・推進を実現させるためのリーダーシップ論と組織の変革を支える人材のフォロワーシップに関する理論を学習する。 1）学習する教育機関について、概説できる。 2）組織を形成・変容させるリーダーシップ・フォロワーシップ・方略・計画を理論的に論じることができる。 3）教職員の協働と育成について方略を計画できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1）スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2）専門科目「医療系教育者の教育能力開発」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：■課題・□創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論や、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1）課題レポート評価 2）学習サマリーレポート評価 3）スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4）LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	教育実践報告と 改善のための批判的吟味 Critical appraisal for educational improvement
対 象 学 年： 1 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 西城 卓也・野村 理
開 講 時 期： 前期	
開講時間割①： 別途ガイドブックで通知	備考：必修
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） いつの時代でも教育理論は変革し、完璧で唯一無二の教育というものは無く、一長一短であることを自覚しつつ、より最善の医療者教育とはどのようなものかを利用可能な根拠に基づき批判的に吟味し、模索する必要がある。明日からの実践している教育を、昨日のそれよりは望ましい最善のあり方に改善計画できることを目指す。これまでの科目での基本的理論とモデルの学びを、各自の実践に当てはめ応用し、根拠のある理論的な改善計画を構築する。 1）根拠に基づく最善の医療者教育について議論できる。 2）自らが日常的に実践している教育実践を要約しつつ、その問題点を教育方法・評価・カリキュラム・指導者養成・組織改革の視点から多角的に同定し、根拠に基づく改善計画を立てることができる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1）スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2）特別研究「医療者教育研究技法の基本」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：□計画・□実行・■管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：■課題・□創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本課程で学んだ医療者教育学の基本的な理論を応用して、各自の教育現場の教育実践を批判的に吟味できる能力や、同僚同士で改善を目指した建設的議論ができる能力の獲得を狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 □ 教科書は、ここまでの科目で利用したものを主として活用する。 □ この科目では、より積極的な文献検索を取り入れ自ら関連する図書や論文を見つけ活用することを促す。	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1）課題レポート評価 2）学習サマリーレポート評価 3）スクーリングでの学習パフォーマンス（各種テスト・技能試験・発言の質・協働性） 4）LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	e-learning における学習支援
対 象 学 年： 2 年次	授 業 科 目 Educational support in e-learning
単 位 数： 2	担当教員名 西城 卓也・早川 佳穂
開 講 時 期： 前期	備考：選択
開講時間割①： 別途通知	教室：Moodle
開講時間割②：	
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 医療者教育を担う人材の育成は、医療者教育者に求められる重要なミッションのひとつである。各組織における効果的なワークショップを開催することはもちろん、e-learning などを通じて、スタッフ養成を企画・運営し、ファシリテーションする能力が求められる。ここでは科目「臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル」で学習したファシリテーションやフィードバックの理論とコツを、実際にチューターとして参加しながら、演習する。また、e-learning による学習を行った後に、学生が現地で直接ワークショップに参加し効果的に学ぶためには、e-learning のないワークショップとは異なるコツを要するので、実習することは非常に意義深い。そのようなオンライン学習への参加経験を通じて、e-learning によるスタッフ養成のための企画の効果的・効率的なマネジメントを学習する。この履修には「臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル」の事前の履修が必要である。 1)教育能力の開発で重要なオンライン学習においてフィードバックやファシリテーションスキルを体得する。 2) 教員・スタッフといった指導者養成について俯瞰的に企画・運営・評価のありかたを議論できる。 3)指導者育成のためのワークショップや教員養成を内省しつつ、改善計画を立てられる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 専門科目（選択）「臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：□計画・■実行・□管理 伝：■傾聴・□発信・□把握 考：□課題・■創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論をふまえて、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 各種評価方法により総合的に判定する。 1) 課題レポート評価 2) 学習サマリーレポート評価 3) LMS での学習パフォーマンス評価（発言頻度・内容の質・協働性）	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	授 業 科 目 医療者教育研究のプロトコール立案 Research protocol writing in health professions education
対 象 学 年： 2 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 野村 理・西城 卓也
開 講 時 期： 前期	
開講時間割①： 別途通知	備考：選択
開講時間割②：	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標） 世界の英文誌を通じて研究論文を発信するためには、用意周到な先行研究調査のほか、世界の教育者が必要とみなす、より重要なリサーチクエスチョンを立て、先を見越した分析方法を設定する必要がある。研究プロトコールを書く一連の流れを実践的に学習する。 1) 研究プロトコールに必要な項目を列挙しつつ、概説・議論できる。 2) 自分自身の医療者教育研究プロトコールを作成・提示できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2) 特別研究「医療者教育研究技法の基本」を踏まえて履修することが期待される科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・■発信・□把握 考：□課題・□創造・■論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の重要な研究手法や学術的発信を目指して必要なことを学び、国際英文誌に挑戦できるような英語での研究計画立案能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 1) 最終レポートとしての研究プロトコール 2) 学習サマリーレポート評価	
その他特記事項	

授業科目区分： 専門科目	e-learning・シミュレーション教育の 開発 授 業 科 目 Development of simulation-based education and e-learning
対 象 学 年： 2 年次	
単 位 数： 2	担当教員名 西城 卓也・早川 佳穂
開 講 時 期： 前期	
開講時間割①： 別途通知	備考：選択
開講時間割②：	教室：Moodle
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標）	
根拠に基づく新しい教育実践をデザインし、チャレンジできることは、教育のエキスパートに求められる能力である。まずデザインに必要なガニエの9教授事象を中心にシミュレーション教育やe-learningなどの領域におけるイノベーションに必要な教授法に関する原理を深く学習する。また近年の新たな教育ツールや新しい教育アプローチを駆使して、これまで実践したことがない未来型の教育を設計しつつ、次世代の医療者教育の姿を議論する。すべてe-learningで履修する。 1) 現代の教育の問題点とそれを解決する新しい教育方略について情報収集し、議論できる。 2) シミュレーション教育・e-learning等のテクノロジーを活用した教育を計画し、論理的に省察できる。 3) 21世紀の新たな医療者教育について議論できる	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) オンライン学習を基盤とする授業である。 2) 専門科目「教育理論と効果的な教育方法」「カリキュラムの開発と評価」の理解が必要とされる。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：□計画・■実行・□管理 伝：□傾聴・■発信・□把握 考：□課題・■創造・□論理 専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 本科目領域における、医療者教育学の基本的な理論をふまえて、教育現場で役立つ実践能力を育むことを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 1) 最終レポートとしての、デザインしたe-learning・シミュレーション教育の成果物 2) 学習サマリーレポート評価	
その他特記事項	

特別研究 授業科目内容

授業科目区分：特別研究	授 業 科 目 医療者教育研究技法の基本 Research basics in health professions education
対 象 学 年：1 年次	
単 位 数：2	
開 講 時 期：後期	
開講時間割①：別途ガイドブックで通知	担当教員名 野村 理・西城 卓也
開講時間割②：	備考：必修 教室：医学部本館 8S15、MS Teams
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標）	
教育の実践と研究のスペクトラムにおいては、自己の信条に基づく教育実践と世界に発信できる教育研究の実践が両極にある。それらの段階を学び、学識を伴う教育実践や様々なレベルでの研究発信の方法を理解する。また教育研究に必要な文献検索・基本的研究デザイン・リサーチクエストの設定・量/質的分析技法を体得する。また研究における倫理的原則を学び、研究上の倫理的課題を議論し、倫理的に相応しい教育研究を模索できる。 1）医療者教育における学究的活動の重要性について説明できる。 2）社会医学として位置づけられる医療者教育学で活用できる研究方法について用途に応じて概説できる。 3）教育研究における研究テーマ/リサーチクエスト設定、先行研究検索、データ収集/解析法を説明できる。 4）教育上の研究倫理について原則を説明し課題を議論できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1）スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業である。 2）専門科目「教育実践報告と改善のための批判的吟味」と連動している科目である。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：■計画・□実行・□管理 伝：□傾聴・□発信・■把握 考：■課題・□創造・□論理	
専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 医療者教育学に関する修士論文を執筆するために必要な、教育研究の基本的スキルを着実に獲得することを狙う。	
教科書・テキスト・参考文献等 別途ガイドブックにて通知	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 1）レポート（修士論文計画書） 2）研究法に関する筆記・実技試験 3）学習サマリーレポート評価	
その他特記事項	

授業科目区分： 特別研究	授 業 科 目 医療者教育実践の調査と研究
対 象 学 年： 2 年次	Research project in health professions education
単 位 数： 6	担当教員名 西城 卓也・野村 理
開 講 時 期： 後期	備考：必修
開講時間割①： 別途通知	教室：医学部本館 8S15、MS Teams
開講時間割②：	
講義概要（授業のねらい・目標（基本的知識と判断力，課題発見，論理的思考，分析力と問題解決，実戦力，倫理観と省察力），学習達成目標）	
修士論文の作成を通じて、医療者教育研究と教育実践の報告とは異なることを理解し、理論的で優れた学識を伴う報告について学習する。 修士論文においては、学生が教育テーマに関する先行研究や問題点、今後の展望を含めた先行文献調査を行い背景としてまとめる。そして自己の教育実践が、これまでの科目で学習した教授法、評価、カリキュラム、教員養成、組織改革などの視点からどのような構造をなし何が課題であるのかを批判的に吟味し執筆する。そして期限内に得た研究データを駆使して、その成果と実践の改善への応用を議論する。 1) 各自の持つ教育活動に関する現状報告や国内の現状を報告・議論できる。 2) 教育実践の構造について、問題点、目標、教育方法、カリキュラム、評価、必要な教員養成と組織へのインパクトなどを理論的に説明考察しつつ、近年の研究とすり合わせて体系的に俯瞰し、かつ批判的吟味ができる。 3) ミニリサーチプロジェクトに関する背景、クエスチョンに対する調査方法と結果、及び学術的考察と実践への応用を論述できる。	
授業計画（授業形態・修得しておくべき科目） 1) スクーリングとオンライン学習のハイブリッド型授業であるが、修士論文を仕上げることを目指し、より自己主導的な学習能力を要する。 2) 専門科目「教育実践報告と改善のための批判的吟味」と連動している科目である。 3) 本修士課程で培った能力を総動員して取り組むことが期待される。	
基盤的能力（基盤的能力に関する重点指導を選択。） 進：□計画・■実行・□管理 伝：□傾聴・■発信・□把握 考：□課題・□創造・■論理	
専門的能力（専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載。） 医療者教育学に関する修士論文の執筆を通じて、各自の教育実践とプロジェクトを、学識をもって発信する能力を育むことを目指す。	
教科書・テキスト・参考文献等 参考資料はこれまでの科目で利用したものと、テーマに合わせ、適宜指導教員と相談したものとする。	
試験・成績評価（試験の方法・成績評価の基準及び方法） 1) 修士論文 2) 修士論文プレゼンテーション 3) 学習サマリーレポート評価	
その他特記事項	